



ごあいさつ

千代田区軟式野球連盟

会長 竹之谷 光 男

本日は、千代田区軟式野球連盟の創立70周年記念式典・祝賀会にご臨席賜りまして、誠に有難うございます。

本連盟は、お陰様で70年の節目の年を迎えました。

これも偏に歴代の役員、審判員、チームの皆さまをはじめ、行政当局、体育協会及び上部団体のご理解とご支援があつてのことであり、ここに改めて敬意と感謝を申し上げます。

我が国に野球が伝わったのは、明治5年アメリカからといわれ、軟式野球は大正8年にボールが改良されてから大衆スポーツとして発展してきました。

時が下り、戦時中の野球統制令や物価統制令の時代を経て、戦後まもない昭和21年には全日本軟式野球連盟と東京都軟式野球連盟が設立されました。

千代田区でも同年に「麹町支部」と「神田支部」が結成され、翌、昭和22年「東京都軟式野球連盟千代田支部」として設立されたが、23年に改称して「千代田区軟式野球協会」とし、24年に名称を「千代田区軟式野球連盟」と改めて今日に至っております。

この間、様々なことがありましたが、何と言っても当連盟が世間に認知されたのは、昭和30年代から50年代のライト工業の存在です。全日本軟式野球連盟・東京都軟式野球連盟の記念誌でも取り上げられましたが、その活躍は一世を風靡したことが特筆されます。

近年の話題としては、平成26年の春季大会から人工芝のグラウンドに模様替えされたことです。好天気下での砂ぼこりや雨天時の試合を思い出す時、隔世の感があります。

昨今は、少子高齢化が著しい中、サッカーをはじめ多種多様のスポーツに関心もたれていますが、今年の甲子園大会にみられるように、若い選手の3年後の東京オリンピック・パラリンピックでの野球の活躍が大いに期待され、関心が持たれることと確信しております。

今後、本連盟は野球界の底辺を支える団体として、80年と言わず更にその先を見据えて発展させて参ります。

皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、御礼のご挨拶といたします。